

フェローシップ・ニュース NO.25

今秋から実施される警察庁の「薬物再乱用防止モデル事業」 ～アパリが警視庁と委託契約締結

事務局長 尾田真言

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディク
ション研究所

発行日
2007年11月1日

1 警視庁との契約の締結

警察庁（国の官庁）では今年度、薬物再乱用防止モデル事業を行うことになっていました。このモデル事業が10月26日（金）から警視庁（東京都の警察）で実施されることになり、10月19日にアパリは警視庁と委託契約を締結することができました。内容は、薬物事犯により検挙され、即決裁判手続により執行猶予となった者に対して、民間団体による薬物再乱用防止プログラムを継続的に実施して、薬物の再乱用の防止を図るとともに、末端乱用者の減少を図ろうとするものです。以下で具体的に説明します。

2 薬物再乱用防止プログラムの概要

プログラムの受講者は、下記～の要件を満たす者です。
覚せい剤などの薬物事件で新宿、渋谷、池袋、麻布、巣鴨、浅草の6警察署のいずれかで検挙された青年男性であること
即決裁判で執行猶予判決が言い渡されたこと
の警察署の警察官からアパリのプログラムを受けるように教示された者であること
アパリでインテークを実施したうえで受け入れを承諾した者であること
アパリでは、一度に最高15名までの者に対して、来年3月末までの間、日本ダルク本部のミーティング・ルームにおいて、以下の[1]～[3]のプログラムを提供します。参加者の参加費用は無料のため、交通費しかかかりません。時間は毎週土曜日の午後1時から5時です。
[1]週1回のアパリのスタッフによる唾液検査キットを用いた簡易薬物検査の実施
[2]週1回のダルク・スタッフによるグループ・ミーティングへの参加
[3]月1回の精神科医等の専門家による薬物の危険性等に関する講義

3 即決裁判について

即決裁判制度は、平成16年の刑事訴訟法の改正により、平成18年10月2日から実施された制度で、事案が明白、軽微で証拠調が速やかに終わると見込まれるなどの条件を満たした場合に、検察官が被疑者の同意を条件として、起訴と同時に書面で即決裁判手続の申し立てができることになっています（刑事訴訟法350条の2）。その後、公判で被告人が有罪であることを認めた場合は、裁判所が即決裁判手続の開始決定を行います（同法350条の8）。この場合、その日のうちに判決の言い渡しが行われることになり（同法350条の13）、懲役または禁錮の言い渡しをする場合には必ず執行猶予の言い渡しをしなければならないことになっています（同法350条の14）。つまり、即決手続は、最初から執行猶予判決が決まっている裁判なのです。
もっとも、裁判官が即決裁判にふさわしくない事件であると判断すれば、通常の手続で裁判することになります（同法350条の8）。また、被告人側は判決言渡前なら通常裁判への移行をいつでも主張できるようになっています（同法350条の10）。
この事業では、通常の刑事裁判で執行猶予になった人は対象外です。なぜかといいますと、即決裁判は、警察に逮捕されてから1ヶ月もたないうちに、被告人質問も行われないうちに30分にも満たない公判手続の中で執行猶予が言い渡されて社会に戻ってくるのが普通です。薬物に対する渴望が強く再発の危険が高い逮捕後3～4週間という時期に釈放されてしまうということと、保護観察など、他のプログラムを受けられないまま社会に出てしまう可能性が高いので、まずは即決裁判を受けた薬物事犯者を対象としようということになりました。即決裁判制度は、身柄拘束による自省の時間が少ないという欠点があるものの、薬物再乱用防止プログラムが用意さ

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所（Asia-Pacific Addiction Research Institute）の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

警視庁のモデル事業開始…尾田	1 2
家族のための連続講座…町田	3
犯罪社会学会報告…尾田	4
NAワールドコンソに参与其中…サム	5
入寮者からのメッセージ…U2	6
藤岡ニュース！…山本施設長	7
アパリからのお知らせ	8

れていれば、より早期に止め続けるための方策が学べるという利点もあります。

4 薬物検査について

アメリカのドラッグ・コートでも一部で採用されている、覚せい剤、大麻、コカイン、アヘン類が検出できる簡易な唾液検査を行います。アパリには、警視庁との契約に基づき報告義務が課せられています。ミーティングの出欠状況と検査結果は月に1度、陽性反応が出た場合には速やかに報告します。本プログラムの参加者には、事前に十分に通報義務等について説明し、異議を述べないという同意書に署名・捺印した者だけを受け入れます。

5 本事業に対する私の個人的感想

従来、薬物事犯対策は検挙して刑罰を科すことによって、薬物犯罪の蔓延を防止するという観点を中心でした。それでもわが国は、銃器と薬物のコントロールが非常にうまくいっている国です。薬物事犯者の数も薬物依存症者の人口に占める割合も、アメリカなどに比べれば桁が違うほど少ないのです。その反面、少数者である薬物依存症者の社会復帰に向けた取り組みはアメリカに比べて20年も立ち遅れてしまいました。

受刑者処遇法の施行に伴い、昨年から刑務所の特別改善教育の一環として薬物依存症離脱プログラムが開始されましたが、数年にも及ぶ受刑生活の中のわずか十数時間がこの教育に割り当てられているのに過ぎないのが実情でした。また、全国の保護観察所では、平成17年から覚せい剤事犯者が仮釈放になった際に、刑の満期までの間、月に1回無償で覚せい剤の尿検査を実施するようになっていますが、保護観察所で薬物依存症の回復プログラムそれ自体を提供しているわけではありません。

このたび、警察庁が初犯者対策として再犯防止事業を実施することの意味は、再犯者をこれ以上増やさないことができるのであれば、徐々に薬物乱用人口が減少するという考えによるものと思われます。刑務所と社会を何度も行き来している薬物依存症者のケアも大切なことですが、より早期に介入することで、より重篤な薬物依存症にならないようにケアをすることも同じく重要な仕事であると私は考えております。

【よくある質問 Q&A】

- Q1、アパリでカウンセリングを無料でやってくれると聞いたのですが、本当ですか？
 A1、本事業ではアパリ東京本部は個別カウンセリングを行いません。あくまで日本ダルクのグループ・セラピーに参加してもらおうプログラムです。個人カウンセリングは、従来どおり、アパリ東京本部で有料で実施しています。
- Q2、この唾液検査キットだけ売ってもらえませんか？
 A2、唾液検査キットの販売は現時点では考えておりません。
- Q3、唾液検査キットで本当にわかるのですか？
 A3、あくまで簡易検査ですから、検査結果には刑事裁判上の証拠能力はありません。わかるのは、規制薬物を使用しているという疑いがあるかどうかということだけです。
- Q4、グループ・セラピーとはどんなことをするのですか？
 A4、集団精神療法と呼ばれるものです。ダルクでミーティングと呼ばれているものと同じです。何人かのグループでテーマを決め、語り合っていきます。このプログラムでは独自のテキストを使ったグループ・ワークも行います。
- Q5、このプログラムの実施期間はどれくらいですか？途中で止めたくなくなったらどうするのですか？
 A5、平成20年3月末までです。プログラムの参加は任意ですからやめるのは自由です。また、欠席が続くような人には、アパリの方から参加をお断りします。
- Q6、警視庁と契約しているアパリと、グループ・セラピーを実施している日本ダルク本部とはどういう関係になりますか？
 A6、アパリが委託契約を警視庁と締結していますが、グループ・セラピーの実施に関しては、日本ダルクに再委託します。アパリはダルクを支援している専門家集団によるシンクタンクです。

絶賛発売中！！

アパリの石塚副理事長、尾田事務局長、嶋根研究員が執筆しています。

本書は、従来刑罰しかなかった薬物事犯者対策に薬物依存症治療を導入したドラッグ・コート制度を日本でも創設しようと提案する日本で初めての書物です。



「日本版ドラッグ・コート」
 定価：2,625円（税込）
 発行：日本評論社
 最寄りの書店でお買い求めください！
 （アパリでは取り扱いはありません）

この事業の詳細についてはアパリのホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

家族のための連続講座2

薬物依存症と家族の対応について（2）「病気と回復」

カウンセラー 町田 政明

薬物依存症の病気は人間が破壊される病気です。人間らしかった人がだんだん進行して行く中で、人間らしい行動が出来なくなり、人間が人間でなくなるということです。今まで出来ていた事が出来なくなったり、人として考えられない行動をするようになるのです。それが犯罪だったり、親や妻への暴力、子供のお金さえ盗むこと、窃盗など犯罪や暴力に走ったり、精神的には切れやすく、うつ、統合失調症になったりします。社会的には離婚したり、職を失ったり、人間関係が困難になり、友人や知人さらには家族や親族を失っていきます。

真の回復とは、このように壊れた人がただ薬を止めれば良いという事ではありません。性格的、人格的、社会的、霊的に回復することです。12ステップを使い、自分の問題の本質に取り組みます。自分の生き方を変えるという作業で、この作業に終わりはありません。一生取り組んで行かないと薬物依存症者は生きていけません。薬物の自助グループNAの元になったアルコールの自助グループAAのビックブックの中に、「回復は奇跡である」と書いてあります。それほど回復することは難しく、回りの家族を巻き込む大変な難病です。

病気を知る

どんな病気もその正体を知らないに対応できません。変な思い込みをしているといつまでも病気は回復しません。多くの家族は自分たちの思い込みで対応しており、病気を悪くしています。例えば糖尿病の人に食事で3,000kcal与えているようなものです。この病気を知り正しい対処方法を取らないといけません。前述のようなケースは食事のカロリーは1,800kcalにしないとイケないのです。

進行性の病気

肉体的、精神的、社会的、人間的にだんだんと壊れていき、子供のようになり、最後には赤ちゃん化していきます。薬のせいで肉体も精神もおかしくなります。食事を取らなくなったり、いらいらしたり怒りっぽくなったり、だんだん進行すると妄想を抱いて人を怖がったり、何かに襲われると思い人を傷つけたりします。平気でウソを言ったり、盗みなどの犯罪行為をしたり、注意した人に逆切れしたり、暴力を振るったりするようになります。さらには平気で親に暴力や暴言、人間として考えられないことを平気でするようになります。

薬のせいで赤ちゃん化して、以前にできたことができなくなり、人に依存してしか生きられなくなります。親に依存するだけでなく、家そのものに依存して閉じこもる人がいます。そしてだんだんと人間が壊れてくるのです。

人格や性格が変わる病気

性格が悪いから、意思が弱いから薬に手を出すのだと言う親が多くいますが、そうではなくて病気のせいで意思がコントロールできなくなったり、性格が変わるのです。ずっとその性格をしているとそのような人格の人と思われれます。だめ人間だと思われたりしますが、これも薬のせいで性格、人格がだんだん変わってきたのです。

脳の病気

親や妻は自分の対応が悪いので、本人は薬に手を出してしまったのだと、また自分の子育てが厳しかったから甘やかしたからと自分を責めてしまうことが多く見られます。全く根拠のない思い込みです。対応が悪いとか育て方が悪いとかで薬物依存症になるのなら、アルコール依存症や閉じこもりにならず、なぜ薬物依存症になるのかその法則を教えてくださいたいものです。薬物依存症になるのはただ薬物を使い脳が気持ちの良いのを覚えてしまったからです。

薬物が神様

薬物にはまってしまうと誰の言うことよりもどんなものよりも薬物を優先します。薬物の神様に乗っ取られてしまうのです。親や妻の言うことよりも薬物の神様の言うことを聞きます。薬物にかなうものはありません。誰もかなわないのです。進行してくると薬物と他の何かの選択を迫られた場合、必ず薬物を選びます。

町田カウンセラーによる「家族のための連続講座」を企画しました。今回は、病気について詳しく説明しました。次号では、主に回復について説明する予定です。

家族の体験記 好評発売中！！

ギャンブル依存症に悩む
家族の物語
～絶望から希望へ～

この本には、ギャンブル依存症で悩む8人の家族の体験が綴られています。これは真実の物語です。家族の貴重な体験を知ることができる貴重な一冊です。

定価：1,000円
発行：ホープヒル
(アパリで販売中)

アパリ発行 「Born・Again (ボーン・アゲイン)」 体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価：1,500円
(会員価格:1,000円)

お申込はメールかファックスで
FAX：03-5830-1791
メール：info@apari.jp
ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。



犯罪社会学会のパンフレットの表紙



犯罪社会学会のシンポジウムで講演する近藤恒夫

薬物と両親、薬物と妻、薬物と子供、薬物と友人、薬物と仕事など、どれも選択に迫られたら必ず薬物のほうを選びます。そして親兄弟、妻などを失っていきます。周りに人がいなくなるのです。

仕事も失い、人間関係も失い、あらゆる物や人を失っていき、最後は自分の命を失っていく怖い病気です。

周りを巻き込む病気

薬物依存症の人は前述のようにだんだん進行すると子供になっていきますから、自分の事が自分で処理できなくなります。夫の役割や父の役割ができなくなり、周りに依存していきま。そして周りの家族は本人に代わってやるが増えていき、ますます本人は赤ちゃん化していきます。そのようなことを続けても良くなることはなく、ますます本人のウソはひどくなり本人を信頼できなくなり、だんだんと家族の方が病んでいきます。頭痛、胃痛、肩こり、神経痛、食欲不振、不眠、うつなどになります。さらに進行すると本人が居なくなってしまう、事故で死んでしまえば、殺したいとまで思うようになり、家族が病的な状態になります。

<次号につづく>

日本犯罪社会学会公開シンポジウムで理事長の近藤が報告

尾田真言

平成19年10月19日(金)13:30～16:30に龍谷大学(京都市)において「犯罪者の社会復帰を考える ～矯正保護とソーシャル・インクルージョン～」と題する日本犯罪社会学会第4回公開シンポジウムが開催されました。当日の京都はあいにくのどしゃぶりの雨でしたが、会場の大講義室の定員を上回る270人もの方が集まり大盛況でした。

ソーシャル・インクルージョンというのは従来、社会から排除されていた人たちを逆に社会が受け入れていこうという意味です。4人の実務家のシンポジストの講演に続いて、アパリ理事長・日本ダルク代表の近藤恒夫が指定討論者として参加し、次のような話をしました。

薬物依存は自由、個人的成長、創造性、そして善意を失う病気です。

私が薬物依存症のリハビリ施設のダルクを創ってから22年になります。薬物依存症者はそれまで支配-被支配の関係の中で生きづらさを感じてきた人たちですから、ダルクでは支配しないことにしました。それで私はダルクを組織化しなかったので国からの援助も得られないまま今まで来たのです。その反面、自分でダルクを創りたいと考えたダルクの出身者たちの手によって北海道から沖縄までそれぞれの地域でダルクは勝手に増殖していき、現在では50箇所以上になりました。

薬物依存症の人が出所して来たときに、すぐに仕事をさせるのは良くありません。薬物依存症の治療をしないうちにすぐに仕事をすれば、またすぐ薬物に手を出ることが多いのでまずはリハビリのプログラムをしていかなければいけません。ダルクでは1日3回のミーティングに出席するということが規則です。毎日ミーティングに参加し続けるというプログラムをやっています。それでも入寮した人の3割は生き延びています。

ダルクは強制的に入寮させられてしまう施設ではありません。手助けが欲しいと言うまで待つというのがダルクのスタンスです。どうしようもなくなって助けて欲しいという気持ちになった人を受け入れる場所です。ダルクのスタッフは全員、薬物依存から回復中の人たちですから、自分の弱さを知っています。ビギナーが一番大切にされるという雰囲気の中で癒されていきます。いつでも「ダメ、ダメ」と言われて生きてきた薬物依存症者に対して、さらに「ダメ」と言っても良くなるわけはありません。彼らはダルクに来て、生まれて初めて「ダメ」と言われることなく、受け入れてもらえるのです。

また、人が変わるときには、人から感謝されたり、感動するといった体験が必要です。刑務所の薬物依存離脱プログラムにダルクのスタッフが参加することは、彼らの回復にも役立ちます。薬物依存症から回復するには、人間として喜びを感じ、生きがいを持って生きていけることが大切なのです。

薬物依存症の問題に限らず、刑務所出所者のためには、出所者自身で自助グループ創ったらどうでしょうか。たとえば、クリミナル・ギャング・アノニマスなんかができると、肩身の狭い思いをして誰にも打ち明けられなかった体験を分かち合う場ができるんじゃないでしょうか。

第32回NAワールド・コンベンションに参加して

サム

アメリカ中西部テキサスのサン・アントニオで開催された第32回NAワールドコンベンション（世界大会）に参加してきました。一緒に行こうと言った言いだしっぺが、職が変わるから行けないとの事で、一人で行ってきました。

スケジュールは次の通りです。

8/27日本を出発、8/29レジストレーション・コンベンション始まる、9/2コンベンションが終了、9/5日本に帰国。

のんびり旅行で、行きは、オーバーブッキングでビジネスクラスに変更され、14時間のフライトも寝ている内に着きました。飛行機は、アトランタのハーツフィールド空港から国内線で2時間でした。そのデルタ航空のサービスは悪く、キャンビンアテンダントは横に座ってフライト中パズルを解いていました。

レジストレーションは、コンベンションセンターの一階で何も飾りのない展示会場でしたが、それだけで3時間ほど待っていました。でも次々に話しかけられ、ハグして、あっという間でした。雰囲気は圧倒されて、私の頭は、フラッシュバック×ブラックアウト状態でした。スペースを利用したNAの歴史、各国紹介コーナーには懐かしいNAの“一緒にやりませんか”というポスターが貼ってありました。そういえばこの顔は誰だなどと思い出しました。

夜のオープニングセレモニーでは、日本の女性メンバーがNAの12の伝統を日本語で読み上げ、拍手喝采でした。今回のコンベンションのテーマは、「私たちが望めること『自由』、私たちのメッセージ『希望』」でした。次のスピーカーはパリから来た女性メンバーで、彼と住んでいてどうしようもない状態だったのですが、ある日、本棚の中のNAベーシックテキストを見つけたそうです。彼のだった。そして、NAに来ることができたと話していました。真っ赤なワンピースを着てとても素敵でした。途中涙で目を潤ませながら話してくれました。

2日目からは色々な分科会にも参加しました。アパリが目指している「ドラッグ・コート」の参加者が集まるミーティングにも参加し、主に関係者がお話をしていました。アメリカではもう既に「ドラッグコート」は満杯状態で政府の対応（予算、人、場所）が間に合わないそうです。ミーティングの合間にJAZZを聞きながらのランチ、バーベキュー、カウボーイダンス（ロデオ）が行われました。そしてなんとドームでの夜のイベントとしてコンサートが開かれ、“ZZtop”が会場を思いっきり盛り上げてくれました。会場は外も中も来日コンサートに来た雰囲気で、儲かった、タダでコンサートが見れたと思いました。

最終日には各地域（国）のNAグッズの販売会がありましたが、長蛇の列であきらめました。期間中町にはNAのタッグを胸からさげたメンバーであふれていて、凄く暖かい雰囲気で安心して歩けました。タッグは金色（事前登録者の人）茶色（当日参加の人）青色（クリーンが1ヶ月の人）と分かれています。

感じたのは、NAは回復した薬物依存者として社会で受け入れられていることです。そして、いつも感謝するのは、ボランティアでロスの日本のメンバーが、FM放送を使って通訳をしてくれる事です。次回、2年後のスペインはどうか分かりませんが、通訳はしてもらえんと思しますのでみなさん一緒に行きましょう。価値観が変わるよ。変えていく勇気を・・・。



コンベンション会場でのコンサートの様子



20年以上前に作られた「一緒にやりませんか」のポスター

NAとは・・・
NA(Narcotics Anonymous) 薬物依存から回復を目指す自助グループ。米国のアルコール依存症のグループ活動から発展した。プログラムは、Meetingと12ステップ。50年以上の歴史があり、2年に1度世界大会を行っている。
日本には30年程前に、当時のハワイのNAメンバーからメッセージを受け広まった。現在北海道から沖縄まで、11地区で127のグループが活動している。

サムの なんちゃってアノニマス劇場 (略してNA劇場)

メッセージ



千円札君と一万円札君



アウェイクニグハウスの入寮者からのメッセージ

「少しずつ変わっていく僕」

U2



池の上に石を組んで、ウッドデッキをみんなで作りました。池には近くの川で捕ってきた魚が泳いでいます。

自分が覚せい剤、MDMA等の薬を使うようになったのは17才の頃です。それまで大麻をやったりしていたグループに誘われた事がきっかけでMDMAをやると仲が深まるとかそんな言葉に心を動かされ、ケミカルという事にとまどいはありましたがすぐに使いました。そのグループが覚せい剤をやっている事も知り、そこまで狂っている様には見えませんがアプリなら良いだろうと思い、MDMAをやっている事からも抵抗なくすぐに使いました。

覚せい剤をやったり止めたりしている間、人間関係も薬を使っている人間に偏ったり、口論したりすることも多くなり、少しずつ孤立するようになっていた気がします。半年後に一緒に薬を使っていた子が捕まり、自分もその事がきっかけにすぐに捕まり、少年院に入る事になりました。この時覚せい剤には二度と手を出さないと心に決め社会に戻り生活していたのですが、酒を飲んだりその勢いでMDMAをクラブでやったりという生活に数ヵ月後には戻り、一年半位経つと覚せい剤をやっている人間とクラブで仲良くなり、あれ程やらないと決めていた覚せい剤に再び手を出してしまいました。

幻聴や妄想がひどくなり、病院に入院する事になったのですが、患者の中に麻取がいるという妄想が入り、家から出られず、家族もこれ以上どうにもならないと思い、警察を家に呼び逮捕され刑務所に行く事になりました。

今回捕まっていなかったらもっとひどくなり、もしかしたら死んでいたかもしれないし、自分の力では止めることが出来ないという事を心から思い、今迄は絶対に行くかと思っていたダルクに自分から行ってみようと思い、藤岡の施設に繋がることになりました。

施設につながり周りの人達の思いやりを感じ、刑務所で閉ざしていた心も少しずつ開けるようになっていく一方、寝てばかりいる人を見てこのままじゃだらけてしまうとか、NAのギャザリングやフォーラム等に参加し違和感を感じたり、そうやって考えていくうちに足元が見えなくなり、自分自身今まで人に自分から相談することも出来なくて、自分勝手に社会でNAに通いアルバイトをしながらやっていこうと決め、仮釈中という身分にもかかわらず施設から飛び出しました。

NAには通っていましたが、アルバイトを探して面接に行ってもそのまま仕事には出なかったり、一回出てそれっきりだったり、思ってもなかなか行動に移せない自分がいました。正直そんな自分がいて悔しかったです。地元の仲間と久しぶりに会ったり新鮮さを感じたりもしましたが、みんな仕事をしていて昔のようにいつも遊んでいるわけにも行かず、自分は楽しいことばかり求める考え方が復活してしまい、クラブに行っていた時の仲間を求めたり、行かないと決めていたクラブにも行き薬を再度使ってしまいました。

そういった生活になっていく中で、NAに行ってから後ろめたさから発言しようとしても出来なくなっていました。このままではどんどんおかしくなってしまうと思い、使った事を親達に言いました。だけど、まだ何とか社会でやりたい思いと、楽を味わいそこから離れたくないと思う自分もいました。千葉にあるダルクに連れて行かれることになったのですが、そのとき自分は酔っていて親の車の中で寝てしまい、気づいたら施設に着いていて、その時から抜け出す事ばかり考えていました。

狭いし、人は多いし、年も離れている人ばかりだし、これだったら藤岡の施設の方が自分には合っていると思いました。施設を抜け出したのは2日後、フェローシップで市街地に出た時で、家に一度戻りましたが、家の中には入れなくて玄関で親と話し、千葉の施設に戻れと言われ、施設長も家まで来てくれて、もし戻る気があるなら明日の朝までに連絡をくれと最後に言われました。それから地元の仲間と会いに行き、その時「信用してもらえないのは、そんな生活しているからだ。信用してもらいたいならまず仕事続けてみるよ」と言われ、心の中で「仕事も続けられない楽なことばかり求めてしまい、自分の問題点が見えてない、結局楽な方向にばかり目を向けてしまう、一度逃げたらそういう人生で終わってしまう、ここで切り替えないと駄目なままで終わってしまう。」そう思い親のところに行き、もう一度、藤岡の施設に戻させてもらえるならやり直したいと言い、次の日の朝方藤岡の施設に戻してもらうことができました。

仲間に会い辛いという思い、あれ程しっちゃかめっちゃかやって受け入れてもらえるのかという思いもあり、ミ・ティングループにも最初は入り辛かったけど、ここで入って

ロイ神父からのメッセージ DVD付き書籍 販売中！

『仲間になってくれてありがとう』

昨年他界したロイ神父が20年以上にわたりマック・ダルクを通して語ってくれた数々の貴重なメッセージと、彼の“仲間”からの手紙を綴った珠玉の一冊。日本における依存症リハビリ施設の歴史を知り、回復者たちの生の声を聞くことができる総頁数500ページを超える重厚な内容に加えて、ロイ神父のビデオメッセージが収録されたDVD付き。援助職の方、ご家族、当事者などさまざまな立場の方にとって必読のバイブルです。一般の書店ではご購入できません。

定価：3,500円

FAX：03-5830-1791

メール：info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

いけなかったら今までと同じだとスタッフに背中を押してもらい、入ったら仲間は受け入れてくれて嬉しかったです。

自分は思い込みで動けなくなる事、言葉に出せなくなる事が多くあるけど、やってみると思ったより良かったと思える事が多くある事もここで気づかされました。今でもここで生活が苦に思うこともあります。今ここを出ても同じ事を繰り返してもっと自分自身狂った生活になるし、それによって苦しむ人もいます、そう思うとまだここにいて自分を変えていかなくてはと思うのです。薬のあった頃の生活は楽しい面もあったけど自分が自立するにはそれは妨げになるから、出来るならこのまま薬を止めて生きて行きたいです。苦しい思いもしたくないです。

今、薬が止まっているのは、薬をやめて生きて行こうとしている仲間達の力を借りているからで、自分の力だけで止まっている訳ではないのだと今回の失敗で強く思います。薬なしの生活だから少しずつ自分の事が見られるようになってきています。食事当番という役割をもらい、自分はまだ周りに頼ってばかりだけど少しずつ自分の判断で動けるようになってきています。支えられている分、少しでも自分の周りを支えられるようになりたいと思っています。クスリが止まっている今だから自分の行動を少しずつだけど、このプログラムを通して自分に出来る事を増やし、思いを行動に移していけるよう生活しています。その為にもクスリは止め続けていきたいです。

藤岡 ニュース!

こんにちは、日本ダルク アウェイクニングハウスの山本です。10月に入り山の上もいよいよ冬モードに入って来ました。まだストーブを入れるには早い気もしますが、朝布団が出るのが辛くなってきた今日この頃です。

さて前回のこの紙面にて太鼓と衣装の購入のお願いをさせていただいた所、たくさんの皆様よりご支援をいただく事が出来、お陰様で新しい太鼓を7つと衣装を7着づつ購入する事が出来ました。皆様の温かいお心遣いに一同深く感謝し7ております。本当にありがとうございました。

去る9月28日に当施設に群馬県みなかみ町の更生保護婦人会の方々(約30名)が施設見学に来られました。その際に初めて新しい衣装を着て、新しい太鼓で人前で叩く機会がありました。初めての事で多少は緊張していた仲間もいましたが、日々の練習の成果もあり、とても素晴らしいものでした。息を切らし、汗を流しながら一生懸命に太鼓を叩く仲間たちの姿を見て涙ぐむ方もいて、僕自身も本当に感激しました。

その後、千葉の下総精神医療センターの家族セミナーでも太鼓を演奏する機会があり、とても良い経験が出来た事と思います。薬物依存症という病気を抱え、なかなか自己肯定感を持ってない僕たちですが、一つの事を日々一生懸命に練習をして、それを人前で披露し、たくさんの方々に温かい拍手をいただく事によって、ちょっとづつですが自信に繋がり、肉体的な回復のみならず、精神的な回復にもなって行くんだらうなあとあらためて感じます。

今後も機会があれば、たくさんの方々に仲間たちの姿を見ていただきたいと思っております。何かバザーやフェスティバルなど催し物がありましたら、お声をかけていただければ嬉しい限りです。これからも琉球太鼓のプログラムを継続していきますので、どうかご支援ご協力宜しくお願い申し上げます。

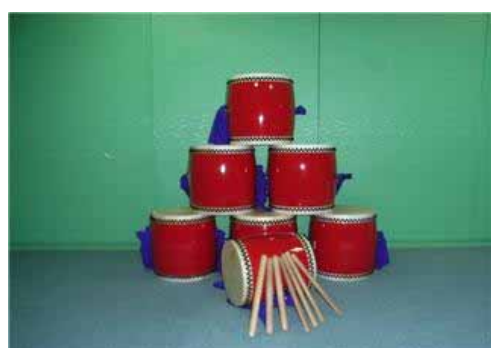
日本ダルク アウェイクニングハウス
ディレクター 山本 大

< 献金をいただいた方 >

佐久間清子様、小山久須美様、中村昌旦様、猿渡順一様、安富良和様、水沢直子様、森田正也様、那須隆信様、亀田牧則様、都筑義明、山本忠彦様、深野圭介様、佐々木享様 順不同

< 献品をいただいた方 >

佐々木享様、安富良和様、川島勝昭様、亀田牧則様、新井寿男様、小野里様 順不同



お蔭様で琉球太鼓7個買えました



黒に縁が金色の衣装です



衣装を着て施設の庭で記念撮影



千葉の家族セミナーの会場でお披露目しました。前列は千葉ダルクとトゲイハウスの仲間。



家族セミナーの会場にて



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部
〒110-0015
東京都台東区東上野6-21-8
電話 : 03-5830-1790
FAX : 03-5830-1791
Email : info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター
(運営: 日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番
電話 : 0274-28-0311
FAX : 0274-28-0313

- 【入寮条件】
1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
2、男性(年齢制限なし)
【入寮期間】
基本的に13ヶ月
【入寮費】
月額16万円 (初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者: 近藤恒夫
編集責任者: 志立玲子
平成19年11月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

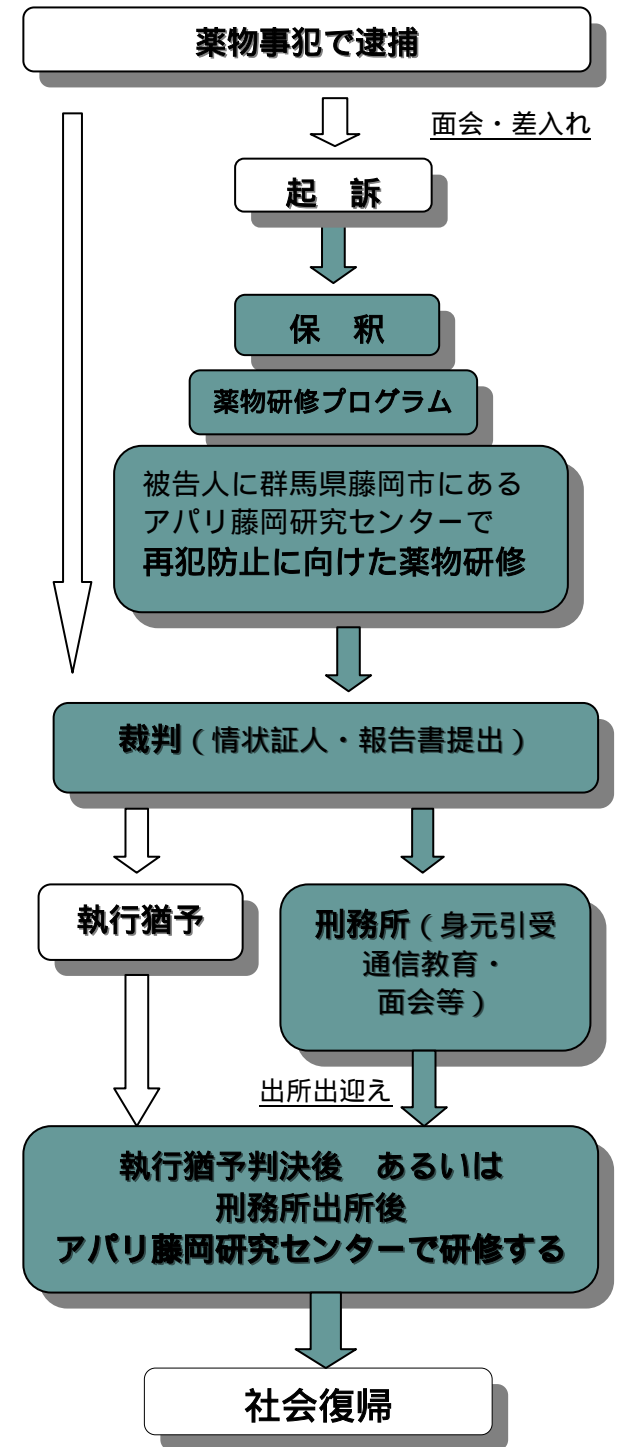
薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は5%以下です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用: コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

【日時】第1・第3月曜日
18:30~20:30

【場所】アパリ・クリニック上野2階(場所を借りています)

【参加費】3,000円 (ご夫婦などでの参加はお二人で4,000円になります)

日時	ゲストスピーカー	テーマ
11月19日(月)	山本 大 (日本ダルクアウェイクニングハウス・施設長)	入寮についてのQ&A、プログラムについて
12月3日(月)	原田 亮 (日本ダルク・研修生)	母と子の関係
12月17日(月)	川上 浩二 (日本ダルク・セラピスト・施設長)	クズリを止め続けるために必要なもの
1月7日(月)	近藤 恒夫 (理事長)	アパリダルクの今後の展望、新年会

【内容】初めにゲストスピーカーによる体験談を30分程度お話していただき、その後、町田カウンセラーが司会を進めながら家族による分かち合いを行います。法律問題については事務局長の尾田が担当します。【お問合せは東京本部まで】

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など。

【費用】45分 9,000円 【場所】アパリ東京本部 501号室

【カウンセラー】町田 政明 [元神奈川立せりがや病院勤務、ホープヒル代表、寿アルク理事] 【予約】アパリ東京本部03-5830-1790 【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間が短くなりますのでご了承ください。